

伝言の録音再生方法

地震など大災害発生時は、安否確認、見舞、問合せなどの電話が爆発的に増加し、電話がつながり難い状況です。

災害用伝言ダイヤルは、被災地内の電話番号をメールボックスとして、安否等の情報を音声により伝達するボイスメールです。

ボイスメールは電話により届先に伝達情報(用件)を録音します。受取側は、電話でこの録音先に電話し、自分あての用件を再生して確認します。

この災害用伝言ダイヤルは、被災地の自宅電話番号の末尾3桁をNTTのネットワークが自動判別して、全国約50ヶ所に配置した伝言蓄積装置に接続し伝言を預かり、再生時も自動でこの伝言蓄積装置に接続します。

利用者の操作	災害用伝言ダイヤルセンターのガイダンス（案内）
1 7 1	「こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。 録音される方は1、再生される方は2です。」
1（録音） 2（再生）	「被災地の方は自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルして下さい。 被災地以外の方は連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルして下さい。」
例） 0595123456	「電話番号0595123456の伝言を録音（再生）します。 プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の1のあと#（シャープ）を押して下さい。 ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直し下さい。」
ダイヤル式電話機の場合	「伝言をお預かりします。ピッという音のあとに30秒以内でお話下さい。 お話が終わりましたら電話を切ってください。」
プッシュボタン式電話機の場合 1 #	「伝言をお預かりします。ピッという音のあとに30秒以内でお話下さい。 お話が終わりましたら数字の9のあと#（シャープ）を押して下さい。」
伝言内容	「よう子です。家族は皆無事で、中央小学校に避難しました。落ちついたら連絡します。」
電話番号を押すときに「ピ・ポ・パ」はプッシュ式で、「ピ・ピ・ピ」はダイヤル式です。	